

ILAC と ILAC 科目について

市ヶ谷リベラルアーツセンター長 伊藤マモル

ILAC とは Ichigaya Liberal Arts Center (市ヶ谷リベラルアーツセンター) の略称です。ILAC は市ヶ谷キャンパスにある文系 6 学部の教養教育のあり方を検討し、専門教育との接続・連携を図り、カリキュラムの設計や支援、改善、提案をするために 2010 年に設置されました。ILAC 科目という名称は 2017 年度以降の入学生に適用されますが、2016 年度以前の入学生にも旧名称の併記の形で提示されています。

ILAC 科目は階層性や順次性、応用や発展を考え合わせ、体系性をもって 1 年次から 4 年次にわたって展開された科目群です。このことからわかるように、ILAC 科目は学部の専門教育課程の科目の基礎となる役割を果たすだけでなく、学部専門教育と相まって、ときには補完的に、ときには外延として、ときには並走して、大学の教育課程の全体を包括するものです。

そのため、ILAC には幅広い多くの科目が存在します。それらがどの学年にどのように置かれ、展開されているのかは、カリキュラム・ツリーという表で俯瞰できます。まさにツリーのように成長し、展開されるのでこの名があります。各科目にはナンバリングが施され、それによって科目群の中におけるその科目の位置づけがわかるようになっています。また、その科目群を学ぶ目的、目標、意義を示したものがディプロマ・ポリシーです。これは人文科学、社会科学、自然科学、情報学、英語、諸語、保健体育の各分野のカリキュラムの設計や運用を担当するそれぞれの分科会によって公開されていますので、法政大学の WEB サイトで確認することができます。各科目の概要や学習の到達目標などは WEB シラバスに詳しく記されています。

古代ギリシャ・ローマにその淵源をもつリベラルアーツの語源である「自由七科」を超えて、ILAC 科目ははるかに幅広い分野をカバーしています。この幅広さは、複眼的視野、多様な考え方を学び、身につけるために必要なことであり、それゆえに法政大学の大学憲章である「自由を生き抜く実践知」と密接に関係しています。それはまた現代社会を生き抜く力でもあるのです。

「教養は幸運なときには飾りであるが、不運の中にあっては命綱となる」

この言葉は、「何のための『教養』か (桑子敏雄著、ちくまプリマー新書)」に書かれていた古代ギリシアの哲学者・アリストテレスの言葉です。ILAC 科目で学ぶ「教養」とは、限りなく、広く、深い概念であり、一言で語り尽くせる言葉ではありませんが、いわば如何に生きるべきかという問いでもあると解釈できます。言い換えれば、2019 年に世界を震撼させ、今も多くの問題を残しているコロナ禍を例に考えてみれば、激しく流動的で革新的に進歩する高度な情報テクノロジー社会と並行して、SDG's にうたわれる地球規模の持続可能な問題解決に資する能力を培うことが重要だということかもしれません。

学生の皆さんがそれぞれに抱く様々な興味や問題を見極め、今後どのような目標に向かって進むべきかを自主的・総合的に思考し、的確に判断する能力を養うことができるように ILAC 科目群は設計されています。

以上のことから、学生の皆さんには、ILAC 科目を通じて、豊かな人間性を養い、社会や世界で活躍するために必要となる円滑なコミュニケーション能力、および幅広い知識を深め、柔軟な思考法を研ぐための学びに邁進されることを切に願っています。

各外国語科目の目的と内容等について(2017年度以降入学生向け)

英語 ※法(国際政治学科除く)・文・経営学部

■英語系科目:必修科目、選択必修科目、選択科目の目的と内容

1. 必修科目

<1年次 English1とEnglish2>

- ・ 英語の必修科目として、1年次にEnglish1とEnglish2を履修します。
- ・ 必修科目のクラスは、入学時に受験した英語プレイスメントαのスコアにもとづいて、学部ごとに習熟度別に編成され、それぞれの習熟度に応じた授業が行われます。
- ・ 下記の種目の説明および学習目標は、全クラス共通です。
- ・ 個々のクラスの授業内容や目標については、Webシラバスを参照してください。

English1・2の内容

英語の必修科目は、高校までに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うことを目標としています。専門課程に進級したり社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、臆することなく、さまざまな種類の英文を読んだり、さまざまなことについて英語で話したり、書いたりできるようにするための基礎作りでもあります。

便宜上、英語の力を読む・書く・話す・聴くという4技能に分け、読む力を主にEnglish1で、書く・話す力をEnglish2で、養うこととします。聴く力、すなわち効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力については、English1・2を通じて養います。また、英語辞書の効果的な使い方についても、English1・2の双方で指導します。

English1の学習目標

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造(topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など)およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。

「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

English2の学習目標

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的構成をもつパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフから成る短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

2. 選択必修科目

<2年次 English3>

- ・ 選択必修科目として英語を選択した人は、2年次にEnglish3を履修します。
- ・ English3のクラスは、1年次秋学期末に受験する英語プレイスメントαのスコアにより、原則的に学部ごとに習熟度別に編成されます。その際、1年次秋学期の初めに実施する「2年次英語・諸外国語選択希望登録<必須>」で希望した、主たる授業言語とカテゴリーを考慮します。
- ・ 下記の学習目標は、全クラス共通です。
- ・ 個々のクラスの授業内容や目標については、Webシラバスを参照してください。

English3の学習目標

1年次に身につけた英語の4技能(読む・書く・話す・聴く)を用いて、English3では以下の能力を重点的に涵養します。

1. 国際語としての英語を通じて、世界の多様な文化を理解・尊重し、自らの文化を世界的な文脈のなかで相対化する能力
2. 多様なテーマの英語資料を理解し、批判的に分析した上で、英語で意見を発信する能力

English3の内容

上記の学習目標を達成するためには、スキルとしての英語を身につけるとともに、そこから一步進んで、英語を通じて何を学ぶか、ということが肝要となります。そのため English3の学習内容は、以下の3カテゴリーに区分されています。

- ・現代の諸相 : 各国事情や国際関係などの時事問題や、現代社会の事象を考察する。
- ・英語圏の文化と社会 : 英語圏の文化や社会について考察する。
- ・世界の中の日本 : 日本と日本文化を、国際的な文脈において、比較文化的視野から捉え直す。

受講生は、上記のいずれかのカテゴリーを扱うクラスに割り振られます。英語の4技能を総合的に用いながら、当該カテゴリーに関連するさまざまなトピックに触れることで、英語による批判的思考および自らの意見を英語で発信する能力の向上を目指します。

3. 選択科目、総合科目(教養ゼミ)、グローバル・オープン科目

- ・ 3～4年次生には英語の必修科目は開講されていませんが、それに代えて選択科目と総合科目(教養ゼミ)が開講されています。1～2年次で身につけた英語の基礎力と勉強の仕方を活かして、各自の興味や関心、専門分野、将来の職業や目標などに応じて、自分で選び受講することができます。
- ・ 選択科目(1年次～4年次対象)、総合科目(教養ゼミ)(2年次～4年次対象)、グローバル・オープン科目(1年次～4年次対象)の種類や科目名については、後掲の表を参照してください。個々の授業の内容や目標については、各授業のシラバスを参照してください。
- ・ 総合科目(教養ゼミ)では、ゼミナール形式で、必修科目、選択科目の学習を発展させて、学部専門科目とは異なる高度な学びを実施します。
- ・ グローバル・オープン科目は、全学部の学生対象に開講される、英語でさまざまな科目を学ぶ授業です。
- ・ 必修科目 English1、English2と選択必修科目 English3と並行して、選択科目、グローバル・オープン科目を履修することができます。総合科目(教養ゼミ)は、1年次生には開講されていません。

■選択科目、グローバル・オープン科目のレベルおよび選抜について

1. 選択科目は受講者の英語力に応じてレベルが設定されています。英語の授業から最大限の達成感と充実感を得るためには、自分の英語力を認識したうえで、自分に最も適した授業を選ぶことが重要です。そのために、以下の注意事項と各担当教員によるシラバスをよく読み、授業のレベルと内容を十分に理解したうえで履修してください。

2. 選択科目はレベル2～レベル4までのいずれかに分類されています。

- ・ 各科目にどのようなレベルの授業が配置されているかについては、後掲の表を参照してください。
- ・ 各授業の具体的なレベルについては、各担当教員によるシラバスを参照してください。

目安として、各レベルに対応する英語プレースメント α とTOEFL®-ITPのスコアは次のとおりです。

レベル	英語プレースメント α	TOEFL®-ITP
レベル1	290点未満	369点以下
レベル2	290点～359点	370点～399点
レベル3	360点～500点	400点～429点
レベル4	501点以上	430点以上

3. 「英語で学ぶ社会と文化」、「英語オーラル・コミュニケーション」、「ビジネス・イングリッシュ」、「英語アカデミック・リーディング」、「英語検定試験対策」では、これらの科目を**英語選択必修科目**として履修する法学部国際政治学科生の履修が優先されます。それ以外の学生は、クラス定員に応じて、これらの科目を英語選択科目として受講することができます。

4. グローバル・オープン科目については、必要とされる英語能力基準を満たしている者のみ受講が可能となる科目もあります。詳しくは、各担当教員のシラバスを参照して下さい。

5. 選択科目、グローバル・オープン科目とも、初回授業において選抜が実施されることがあります。その際参考とする可能性がありますので、すでに取得している英語プレースメント α やTOEFL®-ITPなどのST(下記参照)のスコアや級は、選択科目の場合にはかならず(グローバル・オープン科目の場合はシラバスの指示によって)初回授業に持参してください。

6. 現時点での英語力(スコア)が、履修を希望する授業のレベルに満たない場合、あるいはそれを超えている場合であっても、受講が認められることがあります。初回授業に出席し、担当教員の指示に従ってください。

7. 初回授業での選抜に参加できなかった授業でも、欠員が出た場合などに受講が認められることがあります。掲示等でもお知らせしますので、注意してください。
8. 教育上の理由から、秋学期のみの履修を認めない授業が存在する可能性があります。詳しくは、各担当教員のシラバスを参照して下さい。

※ST(=Standardized Tests)とは、TOEFL®、TOEIC®や実用英語検定などの社会的に公認されているテストのことです。以下の点によく注意してください。

- STのスコアや級を持っていることで自動的に選択科目、一部のグローバル・オープン科目の受講資格が得られるわけではありません。STのスコアや級を履修者決定にどのように利用するかは、担当教員によって異なります。必ず初回の授業に出席し、担当教員の指示に従ってください。

<選択科目、グローバル・オープン科目の内容とレベル>

	科目内容	レベル
選択科目	英語オーラル・コミュニケーション I/II 会話・ディスカッション・プレゼンテーション。原則として英語による授業。	2~3
	ビジネス・イングリッシュ I/II ビジネスの場で実践的に使える英語を学ぶ。	2~3
	英語で学ぶ社会と文化 I/II ■ 社会と文化の諸相を知る 英語素材を通じて世界の社会と文化の諸相について学びながら、英語の諸技能を向上させる ■ マスメディアで読む世界情勢 英語メディア(新聞・雑誌・テレビ・インターネットなど)を通じて世界情勢について学びながら、英語の諸技能を向上させる	2~4
	英語アカデミック・リーディング I/II 語彙力の強化とともに、論理的・批判的に読む力を養う授業。	2~3
	英語検定試験対策 I/II TOEFL®、TOEIC®、IELTS などの検定試験の準備。	2~4
	グローバル・オープン科目 (選択科目)	English Academic Writing I/II アカデミック・ライティングの学習(原則として英語による授業)
English Presentation I/II プレゼンテーションの学習(原則として英語による授業)		4
English Reading and Vocabulary I/II リーディング、語彙の学習(原則として英語による授業)		4
総合科目	Liberal Arts Seminar I/II (Issues in Modern Japanese Society) (総合科目: 教養ゼミ) In this course students examine and discuss various issues related to modern Japanese society	4
グローバル・オープン科目 (リベラルアーツ科目)	Intercultural Communication A: Themes in Global History; Trans-Pacific Interactions 【WEB シラバスを参照】	4
	Intercultural Communication B: Intercultural Understanding and Multicultural Identities 【WEB シラバスを参照】	4
	Intercultural Communication C: Language and Culture in Sync: Language Strategies for English, Japanese, and Beyond 【WEB シラバスを参照】	4
	Intercultural Communication D: Art-Based Language Education: Learning/Teaching English Creatively through Social Activism 【WEB シラバスを参照】	4

英語系科目一覧

英語 必修科目・選択必修科目

科目の名称と内容	単位	定員	履修年次
English 1 I/II (リーディング系)	I, II 各 1	24	1
English 2 I/II (表現系)	I, II 各 1	24	1
English 3 I/II (英語の4技能を連動させて学ぶ。3カテゴリーから選択) ■ 現代の諸相 各国事情や国際関係などの時事問題や、現代社会の事象を考察する。 ■ 英語圏の社会と文化 英語圏の文化や社会について考察する。 ■ 世界の中の日本 日本と日本文化を、国際的な文脈において、比較文化的視野から捉え直す。	I, II 各 1	24	2

英語 選択科目、総合科目、グローバル・オープン科目

(科目の詳細、実際に開講される授業の内容については、各クラスのWEBシラバスを参照のこと。)

科目の名称と内容	単位	レベル 1~4*	履修年次	
選択科目	英語オーラル・コミュニケーション I/II 会話・ディスカッション・プレゼンテーション。原則として英語による授業	I, II 各 1	2~3	1~4
	ビジネス・イングリッシュ I/II ビジネスの場で実践的に使える英語を学ぶ	I, II 各 1	2~3	1~4
	英語で学ぶ社会と文化 I/II ■ 社会と文化の諸相を知る 英語素材を通じて世界の社会と文化の諸相について学びながら、英語の諸技能を向上させる ■ マスメディアで読む世界情勢 英語メディア(新聞・雑誌・テレビ・インターネットなど)を通じて世界情勢について学びながら、英語の諸技能を向上させる	I, II 各 1	2~4	1~4
	英語アカデミック・リーディング I/II 語彙力の強化とともに、論理的・批判的に読む力を養う授業	I, II 各 1	2~3	1~4
	英語検定試験対策 I/II TOEFL®, TOEIC®, IELTS などの検定試験の準備	I, II 各 1	2~4	1~4
	(選択科目) グローバル・オープン科目	English Academic Writing I/II アカデミック・ライティングの学習(原則として英語による授業)	I, II 各 1	4
English Presentation I/II プレゼンテーションの学習(原則として英語による授業)		I, II 各 1	4	1~4
English Reading and Vocabulary I/II リーディング、語彙の学習(原則として英語による授業)		I, II 各 1	4	1~4
総合科目	Liberal Arts Seminar I/II (Issues in Modern Japanese Society) (総合科目: 教養ゼミ) In this course students examine and discuss various issues related to modern Japanese society	I, II 各 2	4	2~4
グローバル・オープン科目 (リベラル・アーツ科目)	Intercultural Communication A : Themes in Global History; Trans-Pacific Interactions 【WEBシラバスを参照】	各 2	4	1~4
	Intercultural Communication B : Intercultural Understanding and Multicultural Identities 【WEBシラバスを参照】	各 2	4	1~4
	Intercultural Communication C : Language and Culture in Sync: Language Strategies for English, Japanese, and Beyond 【WEBシラバスを参照】	各 2	4	1~4
	Intercultural Communication D : Art-Based Language Education: Learning/Teaching English Creatively through Social Activism 【WEBシラバスを参照】	各 2	4	1~4

* レベルの目安

- ・ 英語プレイスメント α : レベル 1 = ~289 レベル 2 = 290~359 レベル 3 = 360~500 レベル 4 = 501~
- ・ TOEFL® ITP : レベル 1 = ~369 レベル 2 = 370~399 レベル 3 = 400~429 レベル 4 = 430~

ドイツ語

■授業の目的・内容

1年次＝入門の基礎コース

「ドイツ語1」「ドイツ語2」

- ①発音のルールを知り、初見の単語が音読できる(ドイツ語は発音のルールを知っていれば、どんな単語でも誰もが初見で読めます)。
- ②基礎的な文法事項を習得する。
- ③辞書などを用いて、初歩的なテキストを分析し理解する。
- ④基本的な口語表現を学ぶ。

2年次＝基礎コース

「ドイツ語3」

- ①文学作品や時事的な評論文、あるいは映像を主とした教材などを用いて、文法力の強化を図るとともに、テキストの内容を的確に把握する。
 - ② 異文化としてのドイツ文化を具体例の積み重ねによって知る。

「ドイツ語4」

- ①文学作品や時事的な評論文など様々な教材を用いて、文法力の強化を図るとともに、構文・テキストを的確に把握する

能力の獲得を目指す

- ②ドイツ語圏の文化について、様々な具体例を通じて知識を深めるとともに、異文化理解の意義について学ぶ

2年次には、必修で「ドイツ語3」を全員が履修します。選択必修で諸外国語(ドイツ語)を選択(パターンB)した学生は、「ドイツ語3」のほかに「ドイツ語4」もしくは「ドイツ語表現法」(※)を履修します。

さらにドイツ語を学びたい場合は、各自の興味に応じて、選択外国語科目の「ドイツ語コミュニケーション」や「ドイツ語視聴覚」「SDGsで学ぶドイツ語」などの科目を履修することができます。

■授業の形式・進め方

これらの授業によってドイツ語の実践的な言語能力の育成をめざしますが、重要なのは、さまざまな教材による言語運用の練習を通じて、わたしたちとは異なる言語をよりどころとする「異文化としてのドイツ文化」を実際に知ることです。リベラルアーツ科目の「ドイツ語の世界L」「ドイツの文化と社会L」は、これから学ぶドイツ語とその文化圏を導入的に紹介する科目なので、「ドイツ語とドイツ語圏の基礎的な知識を知りたい」という人の手始めとしてお勧めです。さらにドイツ語圏の文化、社会、政治をより深く学ぶため、興味、専攻分野に応じて、総合科目の「ドイツ語圏の芸術」「ドイツの思想」「比較文化」「カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏」「教養ゼミ」などが用意されています。

■ドイツ語の学び方

1. なぜドイツ語を学ぶのか？

ドイツ語圏は、ヨーロッパの文化や歴史を知り、世界を知るには重要な地域です。そして法政大学市ヶ谷キャンパスに用意されている様々なドイツ語科目・ドイツ語関連科目は、「ドイツ語圏の文化や社会に興味がある」「ドイツ語圏について知りたい」「ヨーロッパ世界を知りたい」という方には手応えのある内容です。

ドイツ語が第一言語(母語)である話者の総数は、世界全体で1億1000万人程度(日本語、フランス語に次いで世界第12位)、それ以外に世界中で約2,000万人の人々が学んでいます。これは外国語として日本語を学ぶ人の数の5倍以上に相当します。ドイツ語は、ヨーロッパ連合(EU)諸国の中では最も第一言語話者の多い言語であり、またその経済力の強さから、ビジネス言語としてヨーロッパ随一の規模を誇ります。ヨーロッパとその周辺で暮らす人々にとって、ドイツ語とは何よりも「キャリアアップ」をイメージさせる言語なのです。

あるいは皆さんの中に、「ドイツ語は英語と似ている」という話を聞いたことのある方はおられるでしょうか。それはだいたい当たっています。ドイツ語は英語と同じ、インド・ヨーロッパ語族・西ゲルマン語に属する言語の一つです。

ドイツ語を学ぶアドバンテージのひとつは、「ドイツ語のおかげで英語をよりよく理解できる」ということです。日本では昔から「英語と比較しながらドイツ語を学ぶ」教科書がたくさん出版されているのですが、「ちょっと難しい英語の文法・感覚がドイツ語を知ったおかげでスッキリする」「ドイツ語が英語をやり直すきっかけになる」のは、さほど珍しいことではありません。英語が楽しい、あるいは英語は苦手と思う方、どちらの場合でも、ドイツ語は英語の力を伸ばすための大きな助けになりますよ。

そして皆さんの中には、自分が将来は稼いで生きていくということや、「グローバル社会に対応できる人に成長せねばならない」など、自分のキャリア形成を強く意識している方もおられるのではないのでしょうか

目下、国際社会は混迷を迎えています。自国第一主義的な対立や民族主義的なテロは後をたたず、日本もそれに翻弄されていますが、ドイツやオーストリアは、ヨーロッパ連合を政治的、経済的に牽引する国々として、国際社会の中で大きな存在感を発揮しています。また現在のドイツがナチ時代の反省から、難民の受け入れに非常に積極的な国であることは比較的良く知られていますが、古くから多民族国家であるオーストリアや永世中立国のスイスも、社会の多様性や包摂を非常に重んじる社会です。

日本とドイツ語圏諸国との間には150年超の長い交流の歴史があります。市ヶ谷の各学部で学ぶ皆さんは、専攻分野の勉強が進むにつれ、法学や政治学、経済学や社会学、あるいは国際関係論や哲学、史学、文学など、授業の中でドイツ語の概念が用いられる場面に少なからず出会うことでしょう。今後日本が国際社会において相応の役割を果たし、国家としての倫理観、価値観を打ちだしていけるのかどうか？ ドイツ語の学習は、あなたに考える力を、そしてその成果を日本の未来の社会に還元できるような広い視野を与えてくれるでしょう。

2. どの程度ドイツ語を学べるのか？

「ドイツ語1」「ドイツ語2」(1年次)「ドイツ語3」(2年次)という3つの科目(合計6単位)は、ドイツ語選択者が卒業要件を満たすために必要な必修科目で、ドイツ語という言語を話したり書いたりして使えるようになるために必要最低限な知識を得ることができます。「独検」(公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催)3級合格を狙えるレベルといえ、わかりやすいでしょうか。

3. どのようなドイツ語を学ぶのか？

a) 「ドイツ語の世界L」:ドイツ語と、ドイツ語を話す人たちと、ドイツ語を話す人たちの文化について幅広く紹介する授業です。ILAC科目4群の「ドイツ語1」「ドイツ語2」「ドイツ語3」とともに履修することができます。

b) 選択科目:「ドイツ語1」「ドイツ語2」「ドイツ語3」はいわゆるクラス指定の科目ですが、以下の表のように、さらに多様なドイツ語関連の科目を選択することができます。

ILAC4群の2～4年次用の選択外国語科目「ドイツ語コミュニケーション」「ドイツ語視聴覚」「SDGsで学ぶドイツ語」から、自分の興味に応じてさらに履修することができます。

c) 2年次には、必修で「ドイツ語3」を全員が履修します。なお、選択必修で諸外国語(ドイツ語)を選択した学生は、「ドイツ語3」「ドイツ語4」を履修します。「ドイツ語表現法」(*)を修得することで「ドイツ語4」に充当することもできます。

d) 総合科目(自由科目):各種の興味深いドイツ語関連科目が2、3、4年生用が開講されており、卒業所要単位として最大20単位まで履修できます。

4. ドイツ語関連科目・年次配当表:書きたい、話したい、読みたい、資格をとりたい、ドイツ語圏の文化を知りたい、ドイツ語圏の現在を知りたいなど、みなさんの関心や目的に応じて組み合わせてください。

外国語科目	リベラルアーツ科目	総合科目
[1年次クラス指定必修科目] ドイツ語1 I・II ドイツ語2 I・II [2年次クラス指定必修科目] ドイツ語3 I・II [2年次選択必修科目] ドイツ語4 I・II ドイツ語表現法 I・II (※) [2～4年次選択科目] ドイツ語コミュニケーション I・II ドイツ語視聴覚 I・II SDGsで学ぶドイツ語I, II	ドイツ語の世界LA・B (1～4年次) ドイツの文化と社会LA・B (2～4年次)	総合科目: 第三外国語としてのドイツ語A・B ドイツ語コミュニケーション中級A・B 留学ドイツ語A・B ドイツの思想A・B ドイツ語圏の芸術A・B カルチュラル・スタディーズで見る ドイツ語圏A・B 比較文化A・B 教養ゼミI・II

(※)パターンBの学生は、選択必修の必要単位(2単位)を修得以降、選択科目となります。

フランス語 ■授業の目的・内容

フランス語は、国際連合や、国際オリンピック委員会など多くの国際組織で公用語となっています。外交や文化・芸術、ビジネス等の分野で広く用いられているだけでなく、法政大学にあって、フランス語は「自由と進歩」という建学の精神を形づくったボアソナード博士の言語でもあります。基礎知識がまったくないところからスタートして、ぜひフランス語を楽しく学びましょう。

ひとつひとつの授業の形式や進め方、成績評価の方法、教科書に関する詳細は、Webシラバスや学習支援システム-Hoppiiに掲載されています。また、法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部在籍する学生向けに、フランス語に関連する情報の発信をおこなうとともに、授業内容にかんする問い合わせも受け付けています。つぎのURLからアクセスしてください：<https://forms.gle/XMmf4uZQFujZMbne8>。

外国語科目

<1年生向け授業>

「フランス語1」、「フランス語2」

発音・初級文法・簡単な表現にくわえ、フランス語圏の文化や社会についての基礎知識を学びます。

<2年生向け授業>

「フランス語3」

1年次で学んだ基礎知識を、実際に使ってみることによって、フランス語力の土台を固めます。

「フランス語3(インテンシブ)」

通常の「フランス語3」よりも、より高度な運用能力を身につける意欲をもつ学生向けの重点クラスです。必修クラス授業の「フランス語3」と代替可能です。

「フランス語4」「フランス語5」

「フランス語3」とあわせ、「フランス語4」や「フランス語5」を履修することができます。ネイティブ・スピーカーの担当する授業と、日本人教員が担当する授業を組み合わせることで、フランス語力の土台を、より確実なものにすることができます。

- ※ 「実用フランス語技能検定試験(仏検)」は、法政大学を通じて出願すると団体割引が受けられます。学外で実施されるフランス語関連の各種コンクールや、学内で上級生が中心となって開催されている「フランス語カフェ」に関心のある方は、上記のQRコードやURLからお問い合わせください。
- ※ いわゆるネイティブ・スピーカーの教員はフランス語1～5にも配置されていますが、多くの先生が日本に長く滞在している専門家です。フランス語がわからなくても、楽しくコミュニケーションをとることができますので、ご安心ください。ネイティブ・スピーカーの教員が担当する「フランス語コミュニケーション(初級) I・II」や「フランス語コミュニケーション(中・上級) I・II」は、会話主体の外国語学習を希望する方に特におすすめです。また、国際関係やフランス語圏の社会のしくみなど、いわゆる海外事情を学びたい人のために、「時事フランス語 I・II」が開講されています。

リベラルアーツ科目 ※語学の授業ではなく、フランス語圏の文化や社会を日本語で学ぶ科目です。

「フランス語の世界LA・LB」(1～4年生)

フランス語が用いられている世界中の国や地域について学ぶ、初心者のための授業です。

「フランスの文化と社会LA・LB」(1～4年生)

音楽や映画を切り口に、フランス語圏の文化や社会について学ぶ、初心者のための授業です。

「フランス生活文化論LA・LB」(1～4年生)

フランス語圏の食文化の歴史に関する授業と、建築や観光について学ぶ授業の2つがあります。

総合科目

「第三外国語としてのフランス語A・B」(2～4年生)

第3外国語として、全くの初歩からフランス語を学びたい学生のための授業です。

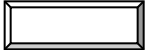
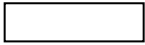
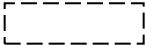
「教養ゼミ I・II」(2～4年生)

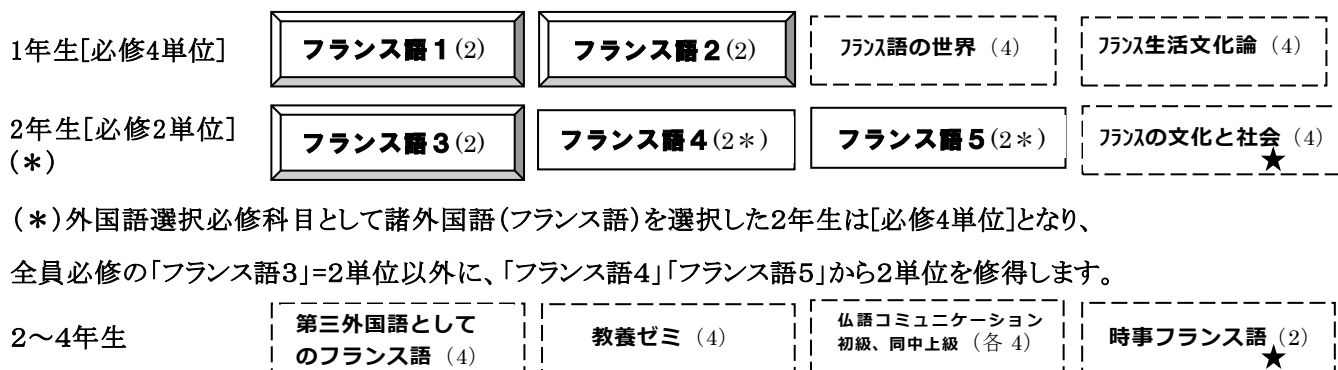
比較的少数の受講者で、フランスやヨーロッパについて学び、討論するゼミ(演習)です。教養ゼミは学部横断で開講されており、幅広い内容を扱います。詳細はWebシラバスや学習支援システム-Hoppiiでご確認ください。

■法学部(国際政治学科除く)・文学部・経営学部におけるフランス語単位履修の例

英語をはじめとする他の外国語や、各学部・学科における専門科目の理解を深めるためにも、フランス語の学習は有益です。以下に、皆さんが学びを組み立てるうえでの参考として、4年間のフランス語履修の流れと、授業の組み合わせの主なパターンを挙げておきます。

【4年間のフランス語履修の流れ】 丸カッコ()内は通年の単位

-  全員必修クラス。ただし意欲的な2年生は「フランス語3(インテンシブ)」を選択できる
-  2年次の外国語選択必修科目としてフランス語を選択した場合に履修する科目
-  選択科目(リベラルアーツ科目や選択外国語科目、総合科目・教養ゼミ)



(*)外国語選択必修科目として諸外国語(フランス語)を選択した2年生は[必修4単位]となり、全員必修の「フランス語3」=2単位以外に、「フランス語4」「フランス語5」から2単位を修得します。

★「フランスの文化と社会」「時事フランス語」は1年生から履修可

■法学部国際政治学科、国際文化学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部におけるフランス語単位履修

各学部・学科が発行している最新版の『履修の手引き』を参照してください。上記の「法学部(国際政治学科除く)・文学部・経営学部におけるフランス語単位履修の例」で「選択科目」として表示されている科目は、ほとんどの学部・学科で履修が可能です。詳しくは各学部事務室までお問合せください。

■各学部・学科が主催するフランス語圏関連科目

上記で紹介したのは、法政大学市ヶ谷リベラルアーツセンターが主催するフランス語圏関連の科目の一部です。これら以外にも、市ヶ谷リベラルアーツセンター、ならびに学内の各学部・学科が主催するフランス語圏関連の科目が存在しています。必修クラスの語学授業を除けば、フランス語圏関連の多くの科目が、他学部公開されています。詳しくは、所属学部で配布している他学部公開科目の一覧や、前掲のQRコードを使って情報収集してください。

■派遣留学制度(全学部が対象):本学学生が学内選考に応募し、派遣学生に選抜されるならば、奨学金をもらいながらフランス語圏の大学に留学することができます。詳しくはグローバル教育センター(大内山校舎2階)または同センターのウェブサイトを訪ねてください。

フランス語受験が可能な海外協定校は、フランス国内に、リヨン第三大学、西部カトリック大学、ヴェルサイユ大学、パリ大学、ストラスブール大学、サンジェルマン・アン・レー政治学院の6校があります。

カナダ・ケベック州の大学で構成されるコンソーシアムBCIも、法政大学と協定を結んでいます。ケベック大学高等工科大学、シエルブルック大学、ケベック大学モントリオール校、ケベック大学リムスキー校、ケベック大学トロワ・リヴィエール校、ケベック大学アビチビ・テミスカミング校、ケベック大学ウタウエ校、ラヴァル大学の8校に、派遣留学制度を使って出願することができます。英語で出願可能な大学や、受講可能な授業も、これらの海外協定校にはもちろんありますが、フランス語の運用能力があれば、出願可能な専門分野や、学部・学科の幅が広がります。フランスだけでなく、カナダ・ケベック州も、現地での日常生活は、フランス語が主に使われます。

ロシア語

■授業の目的・内容

1年次:入門から基礎づくりへ

ロシア語1;発音と文法の基礎

ロシア語2;発音と文法の練習

初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした入門コースです。中・高等学校で学んできたラテン文字(ローマ字)とは異なるキリル文字(ロシア文字)の発音と書き方から始めます。文字に慣れたら、挨拶の表現や簡単な文章でロシア語のイントネーションを習得すると同時に、教科書に沿って基本的な文法を学習します。ロシア語1では、文法に重点を置き、ロシア語2では、その練習・応用や会話表現に重点を置きつつ、授業を進めます。

2年次:基礎から応用へ

ロシア語3;テキストの読解と理解

1年次で習得できなかった新たな文法事項を学習し、基礎文法を修了します。この文法力を活かして、ロシア語の文章に慣れることを目指し、ロシアの社会や文化に関するテキストを用い、「ロシア語を使ってロシアを知る」ことを目標に、総合的な学習をおこないます。

ロシア語4;ロシア語講読入門

ロシア語5;ロシア語会話入門

いずれもロシア語を重点的に学びたい学生のための科目です。ロシア語4では、新聞、雑誌、文学作品などを講読し、読解力を養うと同時に、ロシアに対する理解を深めます。ロシア語5は、簡単な挨拶や日常会話から始め、コミュニケーションに不可欠な語彙・文法・表現をネイティブの先生が指導します。

ロシア語3は2年次に全員が必修、ロシア語4は2年次に必修選択科目として諸外国語(ロシア語)を選択した学生が必修、ロシア語5は2~4年次に選択科目として履修できますが、さらにロシア語能力を高めたい学生には総合科目の中に[ロシア語講読][時事ロシア語][実用ロシア語](いずれも2~4年次対象)が開講されており、1年次から4年次まで体系的にロシア語を学習することができます。また、他にも2年次から4年次まで履修可能な総合科目[第三外国語としてのロシア語][第三外国語としてのロシア語中級]も設置されています。再履修が必要な場合は、ロシア語1(補講)とロシア語2(補講)を受講することも可能です。

リベラルアーツ科目の[ロシア語の世界L](隔年開講)と[ロシアの文化と社会L](2年次以降の履修)は、ロシアの歴史・文化・芸術・社会を多彩な映像資料を通して紹介する講義であり、楽しみながらロシアを理解することができます。語学の授業ではありません。

■授業の形式・進め方

1年次には、週に2回の授業を2人の教員が同じ教科書を用いてリレー方式で授業を進めます。比較的少人数クラスの特徴を生かし、学生の学力にあった授業進行を心がけます。

また、映像や音楽などの視聴覚資料を用いたり、激しく変化しているロシア事情を紹介したりすることで、今日のロシアを身近に感じられるような授業を行います。

2年次以降は、担当教員が受講学生の関心を考慮しながら学生のロシア語能力をさらに高めていけるような授業を行います。「ロシア語を通して、ロシアを知る」ことを実感してください。

■ロシア語を学ぶということ

ロシア語学習にはどんなメリットがあるでしょうか。世界第8位の話者数(第2言語としての話者数も含めると世界第4位)を誇り、国際連合の6つの公用語の1つでもあるロシア語を勉強することで、盤石なコミュニケーションツールのひとつを獲得することになりますね。また、ロシア語の魅力は、そのかたちのみならず、音声や響きの美しさ、表現の豊かさにもあり、ロシア語は世界でもっとも美しい言語の一つとも言われています。

近年、ますます多岐にわたる産業において日本はロシアにとって重要なパートナーと位置づけられていますし、文化的な交流も盛んになりました。今、大学でロシア語を勉強しなければ、社会に出てからロシア語を学ぶ機会はほとんどありません。まして、ロシアの歴史や豊かな芸術や国情を学びながらロシア語教育を受けることはないでしょう。21世紀に活躍する皆さんにとって、ロシア語を学習することは世界を広げ、大きな意義を持つことになるのです。

外国語科目	リベラルアーツ科目	総合科目
1年次 ロシア語1 ロシア語2	1年次～ ロシア語の世界 L	第三外国語としてのロシア語 第三外国語としてのロシア語中級 ロシア語講読
2年次 ロシア語3 ロシア語4 ロシア語5	2年次～ ロシアの文化と社会 L	時事ロシア語 実用ロシア語

※再履修者は、ロシア語1(補講)とロシア語2(補講)の受講も可能。(2年次～)

※派遣留学制度(全学部対象):本学学生が学内選考に応募し、派遣学生に選抜された場合、奨学金を受給してロシア語圏の大学(2020年現在4校)に留学することができます。詳しくはグローバル教育センター(大内山校舎2階)または同センターのウェブサイトを訪ねてください。

※ロシア語能力検定委員会が主催する「ロシア語能力検定試験」の受験を推奨します。本学のロシア語カリキュラムを2年次まで履修すれば、3級の取得が見込めます。3級レベルは、上記「派遣留学制度」への応募要件です。

中国語

1・2年次は、「聞く」「話す」「読む」「書く」「訳す」という5つの面からバランスよく学びます。2年次以降は、多彩な中国語関連科目群から、自分の興味・目標に合わせて、自由にカリキュラムを組み立てることができます。4年間を通して、自身の伸ばしたい能力を無理なく着実に身につけましょう。

【1年次】法・文・営・国・環・キ 共通

必修諸外国語のほか、中国語の発音の基礎を学ぶ「中国語コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ」(歌や朗読等を通じた発音の練習・矯正)や、講義科目「中国語の世界 LA・LB」(中国語圏の言語、文化、社会等の基礎知識を学ぶ)の履修をおすすめします。

【2年次】選択必修外国語に「中国語」を選択した法(国政除く)・文・営の学生(「パターンB」)

必修諸外国語「中国語3Ⅰ・Ⅱ」のほか、「中国語4Ⅰ・Ⅱ」(総合的な学習)、「中国語視聴覚初級Ⅰ・Ⅱ」(視聴覚教材を使用したリスニング中心の学習)、「中国語作文初級Ⅰ・Ⅱ」(語法・ライティングを中心とした学習)から2単位以上を履修し、次のステップへ進むための基礎を固めます。更に、【2～4年次】各学部共通の選択外国語科目、総合科目を履修し、段階的あるいは集中的に中国語を身につけることができます。

【2～4年次】法・文・営・国・環・キ 共通

選択外国語科目、総合科目、リベラルアーツ科目の中から、学習目的に応じた授業を選択履修することができます。HSK(中国政府公認の中国語資格試験「汉语水平考試」)の資格取得、実践的運用能力の向上、中国の社会や文化への理解を深められるように、順次性のある体系的な科目群を用意しています。

◆ 就職活動や留学準備に役立つ中国語資格試験 HSK 対策

- ・ 「資格中国語初級Ⅰ・Ⅱ」(語彙力を高める・語法理解)
- ・ 「資格中国語中級A・B」(リスニング力を高める)
- ・ 「資格中国語上級A・B」(ライティング力を高める)

◆ 読む、聞く、話す、通訳・翻訳するなどの実践的運用力を向上させる

- ・ 「中国語講読A・B」(物語や新聞・雑誌記事等を読み、語彙力を高め、語法理解を深める)
- ・ 「中国語視聴覚中級A・B」(視聴覚教材を用いてリスニング力を高める)
- ・ 「中国語コミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ/中級A・B」(話す力を高める)
- ・ 「中国語翻訳・通訳A・B/C・D」(ネイティブおよびプロの通訳者から翻訳・通訳の基礎を学ぶ)

◆ 中国の社会や文化への理解を深めるための講義科目・教養ゼミ

- ・ 「中国語の世界 LA・LB」
 - ・ 「中国の社会と文化 LA・LB/LC・LD」
 - ・ 「教養ゼミⅠ・Ⅱ(中国の食文化)」
- 「中国語」以外の諸語を選択している学生も履修できます。

→ 次ページ「中国語関連科目カリキュラムマップ」を参照。

※HSKを目安に、各年次の到達目標を設定しています。

<レベルの目安>

- HSK2級レベル 簡単な日常会話ができる(基礎単語300語程度)。
- HSK3級レベル 基本的なコミュニケーションをとることができる(600語程度)。
- HSK4級レベル 比較的流暢にコミュニケーションをとることができる(1200語程度)。
※本学の派遣留学制度を利用して留学する時に必要なのはこの程度のレベルです。
- HSK5級レベル 新聞・雑誌を読んだり、テレビ・映画を鑑賞したり、比較的整ったスピーチができる(2500語以上)。
- HSK6級レベル 中国語の情報をスムーズに読み、聞き、意見を流暢に表現できる(5000語以上)。

中国語関連科目カリキュラムマップ

◆ 選択外国語科目(〇〇Ⅰ・Ⅱ)・総合科目(〇〇A・B)

各年次の「到達目標」に当てはまる科目を「履修推奨科目」として網掛けしています。全科目とも履修年次内なら何年次でも履修可能です。 ※「中国語4」は法・文・営「パターンB」選択者のみ履修可

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
到達目標内容	中国語の基礎固め		HSK1・2級レベル		HSK3・4級レベル		HSK5・6級レベル	
総合的な運用能力を高める			中国語4Ⅰ	中国語4Ⅱ	中国語4Ⅰ	中国語4Ⅱ	中国語4Ⅰ	中国語4Ⅱ
資格試験対策			資格中国語初級Ⅰ	資格中国語初級Ⅱ	資格中国語初級Ⅰ	資格中国語初級Ⅱ	資格中国語初級Ⅰ	資格中国語初級Ⅱ
留学準備			資格中国語中級A	資格中国語中級B	資格中国語中級A	資格中国語中級B	資格中国語中級A	資格中国語中級B
表現力を伸ばす	中国語コミュニケーション基礎Ⅰ	中国語コミュニケーション基礎Ⅱ	中国語コミュニケーション基礎Ⅰ	中国語コミュニケーション基礎Ⅱ	中国語コミュニケーション基礎Ⅰ	中国語コミュニケーション基礎Ⅱ	中国語コミュニケーション基礎Ⅰ	中国語コミュニケーション基礎Ⅱ
			中国語コミュニケーション初級Ⅰ	中国語コミュニケーション初級Ⅱ	中国語コミュニケーション初級Ⅰ	中国語コミュニケーション初級Ⅱ	中国語コミュニケーション初級Ⅰ	中国語コミュニケーション初級Ⅱ
			中国語コミュニケーション中級A	中国語コミュニケーション中級B	中国語コミュニケーション中級A	中国語コミュニケーション中級B	中国語コミュニケーション中級A	中国語コミュニケーション中級B
			中国語作文初級Ⅰ	中国語作文初級Ⅱ	中国語作文初級Ⅰ	中国語作文初級Ⅱ	中国語作文初級Ⅰ	中国語作文初級Ⅱ
読解力を伸ばす			中国語講読A	中国語講読B	中国語講読A	中国語講読B	中国語講読A	中国語講読B
リスニング力を伸ばす			中国語視聴覚初級Ⅰ	中国語視聴覚初級Ⅱ	中国語視聴覚初級Ⅰ	中国語視聴覚初級Ⅱ	中国語視聴覚初級Ⅰ	中国語視聴覚初級Ⅱ
			中国語視聴覚中級A	中国語視聴覚中級B	中国語視聴覚中級A	中国語視聴覚中級B	中国語視聴覚中級A	中国語視聴覚中級B
翻訳・通訳する力を伸ばす			中国語翻訳・通訳A/C	中国語翻訳・通訳B/D	中国語翻訳・通訳A/C	中国語翻訳・通訳B/D	中国語翻訳・通訳A/C	中国語翻訳・通訳B/D

◆リベラルアーツ科目・総合科目(教養ゼミ・第三外国語としての中国語)

※「中国語」以外の諸語を選択している学生も履修できます。

中国の文化と社会を理解する	中国語の世界 LA	中国語の世界 LB	中国語の世界 LA	中国語の世界 LB	中国語の世界 LA	中国語の世界 LB	中国語の世界 LA	中国語の世界 LB
			中国の社会と文化 LA/LC	中国の社会と文化 LB/LD	中国の社会と文化 LA/LC	中国の社会と文化 LB/LD	中国の社会と文化 LA/LC	中国の社会と文化 LB/LD
			教養ゼミⅠ	教養ゼミⅡ	教養ゼミⅠ	教養ゼミⅡ	教養ゼミⅠ	教養ゼミⅡ
第三外国語としての中国語			第三外国語としての中国語 A	第三外国語としての中国語 B	第三外国語としての中国語 A	第三外国語としての中国語 B	第三外国語としての中国語 A	第三外国語としての中国語 B

※上記の科目は年度によって開講しないものもあります

スペイン語

■授業の目的・内容

「スペイン語1」と「スペイン語2」は、いずれも入門者を対象とするものであり、文法の基礎を習得すること、発音に慣れること、平易な文章の読解が出来るようになること、表現の初歩を学ぶことなどを主な目的としています。

「スペイン語3」では「スペイン語1」「スペイン語2」で学習したことの復習を踏まえながら、初級文法を一通り学習します。

「スペイン語4」は既にスペイン語の基礎を終えた受講生を対象とするものです。様々な分野にわたるテキストを使用しながら、文法の理解及び長文読解力やスペイン語会話力を高めていきます。それらの学習を通じて、スペインやラテンアメリカの文化、歴史、社会に関する理解を深めることも目的としています。

「スペイン語(補講)」は「スペイン語1」「スペイン語2」「スペイン語3」いずれかの単位取得ができなかった学生のための授業です。

更にリベラルアーツ科目として開講されている「スペイン語の世界」はスペインとラテンアメリカ諸国を含むスペイン語圏の文化全般を紹介するものです。

その他、「スペイン語コミュニケーションⅠ／Ⅱ」「スペイン語コミュニケーション中級A/B」「現代のスペイン語Ⅰ／Ⅱ」「第三外国語としてのスペイン語A/B」「教養ゼミ(スペイン語圏の文化と社会を読み解く)」「スペイン語講読A/B」「スペイン語上級A/B」など、さまざまな授業が用意されています。

■授業の形式・進め方

テキストを中心に授業を進めていきます。受講生による積極的な参加が求められるのはもちろんのこと、予習と復習の励行が要求されます。辞書は必ず持参してください。

朝鮮語

■授業の内容

<1年次>

1年次では朝鮮語の授業が週2回あり、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」を合わせて履修します。両者を通じて文字と発音、基礎的な文法と語彙を学習します。「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員が同一の教材を用いて一体のものとして授業を進める(リレー方式)ことによって効果的に学習できるよう配慮しています。同じ授業が週2回あると考えていただければ幸いです。

<2年次>

2年次では朝鮮語を週2回学ぶか、週1回学ぶかを学生が選択します(選択は1年次の秋に行ないます)。

週2回を選択した学生の履修方法は以下の3つのいずれかとなります(2年次の春に決定します)。

- ①「朝鮮語3A(重点)」と「朝鮮語4A(重点)」を履修する。この2つの授業は1年次と同じくリレー方式で進める予定なので、かならずセットで履修してください。
- ②「朝鮮語3B」と「朝鮮語4B(視聴覚)」を履修する。
- ③「朝鮮語3C(コミュニケーション)」と「朝鮮語4B(視聴覚)」を履修する。

週1回を選択した学生は原則として「朝鮮語3B」を履修しますが、かわりに「朝鮮語3C(コミュニケーション)」を履修することも可能です(ただし履修者数に制限があるので、抽選になることがあります)。

<3年次以降>

選択科目として「朝鮮語5A(講読)」と「朝鮮語5B(表現法)」が用意されています。

■ 授業の形式・進め方／成績評価の方法・基準／使用テキスト

いずれもWEBシラバスの各科目の該当科目を参照してください。

■その他

朝鮮語は「日本語に近いやさしい外国語」だと聞いたことがあるかもしれません。

それはまったくのウソとは言えませんが、他の外国語とは異なり、新しい文字と発音、単語をいちどに覚える必要があるため、最初はかならずしもやさしくありません。そして、「やさしい」ということは、「他の外国語よりも楽ができる」ということでは決してありません！！

外国語の学習にとっていちばん重要なのは時間をかけることですが、それは大学での授業時間のみではそれは不可能です。授業は家での復習が行われることを前提に進むものと考えてください。授業に積極的に参加してくれること、また朝鮮に関するさまざまなことに関心を持ってくれることを教員一同希望しています。

日本語

■授業の目的・内容

この授業は、留学生が大学で勉強・研究していく上で必要とされるレベルの日本語力を指導・訓練することを目的としています。

1年次で履修する日本語1(I/II)・2(I/II)の内容は、1が読解や聴覚・視覚メディアによるインプットから情報を得る能力を、2が特に「書く」という表現行為によるアウトプットの能力を、それぞれ養成することを目的としています。

2年次で履修する日本語3(I/II)・4(I/II)の内容は、3が「速読」、4が「精読」という相異なった読解作業を通して、更に勉学・研究を続けていくための自己学習能力を、それぞれ養成することを目的としています。